

1 アンケート結果

(1) 回答内容のまとめ

総合評価では、80名弱の回答者のうち、「平均よりやや上」と「平均よりやや下」が多く、ただし「上」のほうが「下」を上回りました。「最悪」は、ゼロでしたが、「悪い方」というのも10ほどありました。「良い方」も10ほどありました。

予想通り、年間スケジュールの中での位置づけがわからないという不満が強かったです。

予想外の、ありがたい(今後に生かしたい)コメントとして、「紙1枚に手書きでもいいから、概念図や説明図を付けて欲しい」という内容のコメントがありました。

(2) 補足説明

プリント(handout)が多すぎるというコメントについては、以下のようにお願いします。試験の準備などに、材料があったほうがいいので、あえて配布してます。今回はテキストがないので、こうしたプリントを配布しておかないと、試験準備の際にこまるだろうと考え、配布しています。量が多いことについては、フォルダーやファイルを準備して(この講義に限らず)、情報整理に努めてください。100円ショップで100円でクリア・ファイルが売っております。個人的には、クリア・ファイルがおすすめです。

2 スケジュール、講義計画

- ・ 第14回(後期第1回) 10月4日 70年台から現在までの途上国、およびブラジル経済発展のおおまかな流れ
- ・ 第15回(後期第2回) 10月11日 ブラジルの94年~99年のマクロ経済体制の矛盾
- ・ 第16回(後期第3回) 10月18日 ブラジルとラテン・アメリカ全体の「ドル化」とその破綻、通貨危機発生の問題、など
- ・ 第17回(後期第4回) 10月25日 地方経済の活況
- ・ - - - - - 11月1日 (学祭で休講)
- ・ 第18回(後期第5回) 11月8日 ブラジルの地域経済、地方自治、参加型予算
- ・ 第19回(後期第6回) 11月15日 ブラジルの貧困問題と、その対策
- ・ 第20回(後期第7回) 11月22日 ラテン・アメリカの歴史
- ・ 第21回(後期第8回) 11月29日
- ・ 第22回(後期第9回) 12月6日
- ・ 第23回(後期第10回) 12月13日
- ・ 第24回(後期第11回) 12月20日
- ・ 第25回(後期第12回) 1月10日
- ・ 第26回(後期第13回) 1月17日
- ・ 第27回(後期第14回) 1月24日
- ・ 第28回(後期第15回) 1月31日
- ・ 学期末試験 2月7日

全世界的なトピックを中心に
・ 途上国の公害、環境問題
・ 日本のODA
・ 日本の外国人労働者
・ 内発的発展
・ リクエストのあるトピック

全学的な講義終了日は、年内は12月21日(金)です。ただし、25日、26日が補講日(全学的に)です。本講義は、補講は、ありません。

【シラバスとの比較】シラバスは、以下。

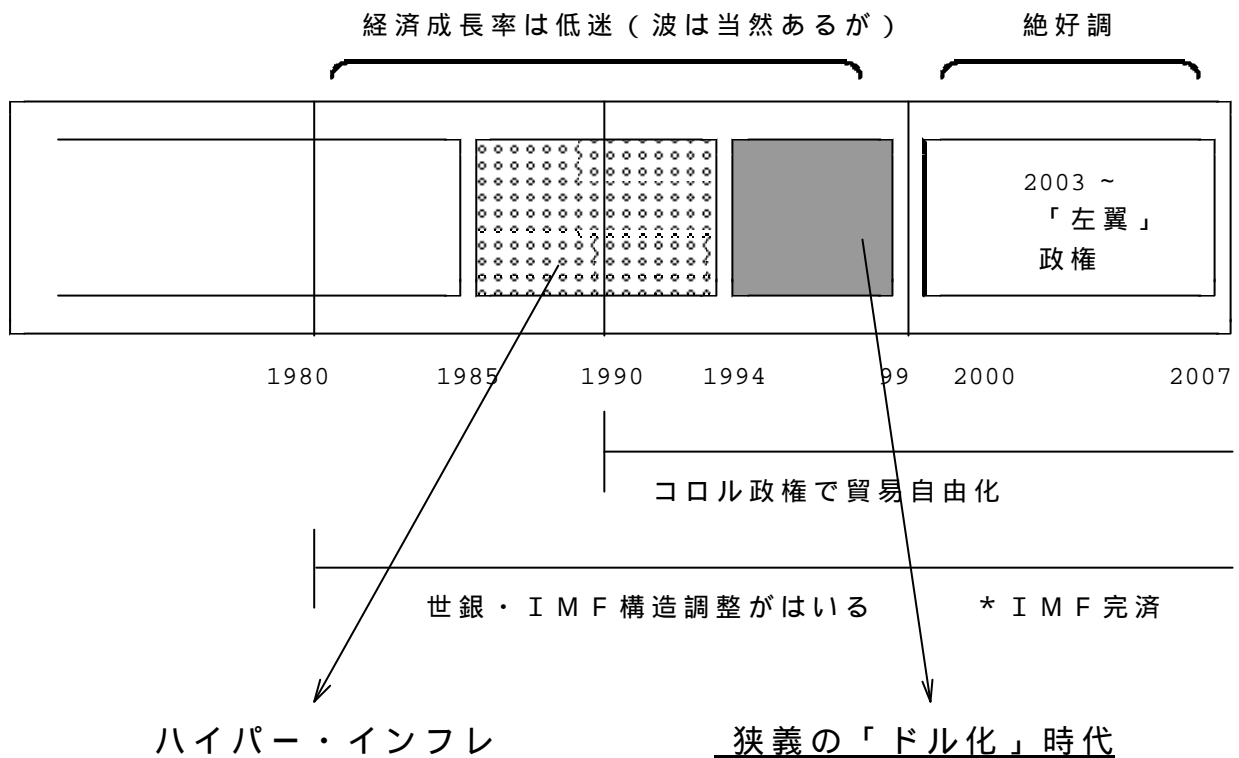
http://park23.wakwak.com/~latin_america/syllabus_2007_developingeconomies.pdf

第2部(7月~11月)は、ブラジルを中心に、具体的な経済を取り上げる。労働者党ルーラ政権の誕生、グローバル体質に変化したブラジル経済、金融システム安定化への挑戦、変貌する産業と企業活動、ブラジルの中小企業、「都市システム」の変

容と地方分権化、教育開発と社会の変化などのイシューを解説する。アジアやアフリカなど南米以外の地域の途上国も適宜扱う。

第3部(12月と1月)は、途上国経済に関するトピック別の考察である。扱うトピック:「地球市場」の誕生と「富の攻防」(2003年放映のNHKスペシャルを参考に)、教育と子ども、南米移民、地方分権化と「参加型予算」(participatory budgeting)の衝撃、日本のODAなど。その他受講生のリクエストに応じる(講師の対応能力の範囲内で)

3 この間の流れ



では、絶好調な今、問題はないのかという視点で、考察したのが、先週。

1 絶好調の中身

- ・ 輸出
- ・ 外貨準備高
- ・ 対外債務残高

2 ウィークポイント

- ・ 15年以上の長い財政緊縮路線で、生活インフラへの公共投資進まず、住民の不満は解消していない。フローはOKだが。
- ・ 資源価格がさがったら、どうか?
- ・ 地方自治体は、企業誘致合戦で、財政的に疲弊。内発的発展はすすまず。
- ・ 「参加型予算」をするも、たんなるガス抜きでは?

4 ブラジルの貧困問題とその対策

(1) フローの貧困

貧困指標が混乱状況。どれが正しいの？

国際貧困ライン（1日1ドル以下）

PPP換算（世銀方式）

PPP換算（ブラジルのCIP方式）

CIPは、Centro Internacional de Pobreza。国連開発計画と連携している団体で、本部はブラジルにある

国別貧困ライン

極貧層 最低賃金の4分の1以下

貧困層 最低賃金の半分以下

(2) 制度、歴史的背景の深い、貧困問題

MST (movimento de sem terra) の運動（土地無し農民が200万人）

(3) ストックの貧困

たとえば住宅問題

(4) 対策

フロー中心。たとえば、「ボルサ・ファミリア」 Bolsa Familia

これはブラジル型の CCT (conditional cash transfer)。

子どもの就学を条件に、月額 基本額が約25米ドルを給付

ストックの対策はどうか 財政投融資制度の活用

インフラ整備（一般に）:

- 1 集める
- 2 借りる（借りて、ふみたおす？）
国内から
世銀などから
- 3 稼ぐ（国営企業）
- 4 もらう

ブラジルは、財政投融資制度があるが、86年に倒産理由は主に2つ。腐敗とインフレ

(5) ブラジルは「福祉国家」になれるか？